

1. 科目名（単位数）	図画工作Ⅰ（小）（2単位）	3. 科目番号	EDEL1304
2. 授業担当教員	片岡 浩		
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期・児童期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特徴を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。		
9. アサシメント（宿題）及びレポート課題	1. 課題作品提出 2. プレゼンテーションおよび資料（写真）の提出		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】（購入の必要はない） 【参考書】花 篤 實・岡田敬吾『新造形表現 実技編』三晃書房。 適宜資料を配布します。作品制作のための道具、材料は事前に指示しますので各自で用意してください。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 児童の表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。 2. 発達段階における造形表現の特徴に関する基礎的な知識が身につけられたか。 3. 児童の造形活動を指導する上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。 ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の 20％ 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 30％ 3. 制作や鑑賞活動の成果（ポートフォリオ等） 総合点の 30％ 4. 課題（作品発表、レポート等） 総合点の 20％		
12. 受講生へのメッセージ	1. ものづくりや表現を「楽しむ」体験をして下さい。 2. 指示されたノルマやプログラムをただこなすのではなく、「失敗しても構わないので」自分の興味関心を大切に、自ら考え工夫し判断しながら自由な心で取り組む習慣を身に付けていって下さい。 3. 作品制作をとおして表現活動におけるコンセプトの意味を体験し、プレゼンテーション能力を養って下さい。※授業日程は実習の進行状況によって調整する場合があります。		
13. オフィスアワー	※ 現在、時間割曜日未定		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（授業内容、目的、評価、用意するものなど）自己紹介 【必要な道具】必要な道具は前週に指示する	事前学習	今迄に取り組んだ美術・造形体験について振り返り興味深かったこと、あるいは苦手だったことをA4レポートにまとめてみる。
		事後学習	内容のまとめ、図画工作でやってみたいことのイメージをふくらませアイデアや表現をクロッキー帳に描く。
第2回	動物を描く ルビンの壺で動物を表現する 顔写真撮影	事前学習	美術・芸術作品に親しむ為に、NHK 日曜美術館などメディアを通じた美術鑑賞を行い、鑑賞体験をする。
		事後学習	水彩絵の具、筆などの画材を用意し、各自で使用してみる。
第3回	スタンピング表現1 「にぼし」をつくろう 【必要な道具】絵具、カッター	事前学習	好きなもの・興味のあるものの特徴を観察し、クロッキー帳に描く（書くのではなく描く）。
		事後学習	①ネガ・ポジ視点でモチーフを観察して描く。 ②「マーブリング」「ブラッシング」「フロッタージュ」「デカルコマニー」「ステンシル」など関連した技法について調べ比較しまとめる。
第4回	スタンピング表現2 「手相を観察してペイントしよう」 【必要な道具】筆、絵具	事前学習	様々な絵の具の表現方法を体験し、理解を深める為に、その技法と表現について調べる。
		事後学習	版画の技法についてグループで分担して調べる。
第5回	五感をつかった表現1 「右脳を使って表現しよう！」 「見て、触って、たたいて、嗅いで、味わってりんごを表現する」 （第4回～第6回は継続した作業） 【必要な道具】クレヨン、スケッチブック	事前学習	五感をとおした実体験において、今までで印象に残っていることをクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する。
		事後学習	様々なモチーフを授業と同様に、五感で体験し、クロッキー帳に自由に表現し描く。

第 6 回	五感をつかった表現 2 「りんごの世界」 色彩による感覚表現 【必要な道具】折り紙・和紙・いろ紙、のり、はさみ、スケッチブック	事前学習	スクラッチ技法について調べ、自分なりに試してみる。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の色彩表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する。
第 7 回	五感をつかった表現 3 「りんごの世界」 触覚による造形表現 【必要な道具】新聞紙・折り紙・和紙・いろ紙、のり、はさみ、スケッチブック まとめ（りんごの仕上げ・サイン）と撮影会	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の立体表現に取り組み、課題の技法と表現について理解する。
第 8 回	視点を変えた立体表現 1 アルミホイルとティッシュをつかった立体造形 竹串で骨格をつくる マスキングテープで補強 「ルビンの壺～ネガポジ視点でかたちをつくる工夫」 「骨格を意識する」 【必要な道具】アルミホイル、ティッシュ、粘土、水彩絵の具	事前学習	白抜き描法でモチーフを意識的に観察する。
		事後学習	「作品」に対する意識を高め、造詣を深め、興味・関心・創作意欲を養う為に、ジュンク堂や図書館などで美術・芸術の情報に触れたり、銀座のギャラリー巡りを体験する（研究室前に展覧会情報が掲示してあります※ギャラリーは基本的には入場無料ですのでマナーを守って鑑賞しましょう）。
第 9 回	視点を変えた立体表現 2 （※3回、4回まで延長する場合あり） アルミホイルとティッシュをつかった立体造形 アルミホイルで補強、ティッシュで肉付け、着色 「ネガポジ視点でかたちをつくる」 「オリジナル動物の作成」 【必要な道具】水彩絵の具、粘土 鑑賞会（各作品にコメントを書く）と撮影会	事前学習	ネガポジ視点でモノを観察する練習を行う。 五感をとおした実体験において、今までで印象に残っていることをクロッキー帳に絵や文章等で自由に表現する。
		事後学習	プロポーションやムードを把握する能力を養う為、今回の課題で体験的に学んだことを参考にして、意識的にカタチを捉え、その見方を学ぶ。 様々なモチーフを授業と同様に、五感で体験し、クロッキー帳に自由に表現し描く。
第 10 回	色水あそび 1 「カタチの見方、捉え方（鉛筆による表現）」 「水彩表現の基礎とコツ（絵具の混色）」 【必要な道具】水彩絵の具	事前学習	モチーフを選び様々な画材の「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現（鉛筆による表現、絵具の混色）について理解する。
第 11 回	色水あそび 2 「カタチの見方、捉え方（水彩絵の具による表現）」 「水彩表現の基礎とコツ（ネガ・ポジ視点）」 【必要な道具】水彩絵の具、のり	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を画材の「色」を使ってクロッキー帳に自由に表現する。
		事後学習	異なるモチーフを用いて授業と同様の表現に取り組み、課題の技法と表現（水彩絵の具による表現、ネガ・ポジ視点）について理解する。
第 12 回	造形基礎 1 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～鉛筆の削り方・持ち方・カタチを捉える～」	事前学習	「本物そっくりに上手にかく」ことにはどのような意味があるのか、自分の経験も振り返りながら考察し、まとめる。
		事後学習	①各段階における作業目標を意識しながら取り組み身に付けていく。 ②自分の経験値だけに頼った「わかったつもり」の作業をしない。
第 13 回	造形基礎 2 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～様々な種類の鉛筆を使いグラデーション表現を試みる～」	事前学習	現段階における作業到達点（技法と安全への配慮、カタチの見方・捉え方）を意識し理解し身に付けること。
		事後学習	現段階における作業到達点（グラデーション表現のコツ、カタチの見方・捉え方）を意識し理解し身に付けること。
第 14 回	造形基礎 3 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～かたちの見方・捉え方～」	事前学習	現段階における作業到達点（道具の安全管理・扱い方、グラデーション表現）を意識し理解し身に付けること。
		事後学習	①各段階における到達目標と全体の作業段階の関係性を理解する。 ②全体の作業工程とポイントを意識しながら身に付けていく。 ③誰にでもできるプログラムについて考察し、まとめる。
第 15 回	造形基礎 4 誰にでもできるデッサンのコツを学ぶ 「手の表現～稜線の見方・捉え方、仕上げ表現～」	事前学習	作品表現に関わるコンセプト・プレゼンテーションの意味について考察し、「作品テーマ」を詩や言葉で表現する。
		事後学習	①素材表現の可能性について試行錯誤し探求する ※納得がいくまで実習室での時間外制作に取り組んでも構わない。 ②様々な学びと気づきの中から制作者および指導者としての視点を養うこと。